

8/3
(土)

- (10) (9) (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)

⑤ 与えられたものを覚えるという点で受け身の発想だ(から)
イ
A オ B イ
古来さまざまな人たちが共通していつていること
自分の分野にこだわらず、もっと広い視野でものを見ようということ
ウ
ア
イ
既成の理論やを育てていく(人)

○解説○

- (1) 挿入する文の「……」によって、独創性に富んだ新しい考え方が生まれてくるのだに着目し、「どのように独創性に富んだ考え方が生まれてくるのか」が書かれている段落を探す。
(3) 「ある事柄を記憶するというのは、与えられたものを覚えるという点で受け身の発想」とあり、「この反対に独創性というのは……進取的な発想」とあることを押さえ、「この反対に」に着目して考える。
(4) Aのあとの「独創性」というのは……自分の頭で考えながら自分の力で実践していく能力は、前の「独創性」というのは……進取的な発想を会得していなければできないを要約している、説明のはたらきをする接続語があとではまる。
(7) ⑤段落が、「たとえ」 という例示の接続語で始まっていることに着目する。
(9) ③段落が、「では」という話題転換の接続語で始まっていることに着目し、最初の文の「どうすれば独創的な頭の良い人間になることができるのだろうか」という内容が述べられているのは、どの段落までかを読み取る。
(10) 最後の文に「本当に独創的な人間だといえる」とあることに着目し、どういう人が「独創的な人間」なのかを読み取る。

- (5) (4) (3) (2) (1)

① かせぎ
ア ウ
④ 山の奥深くに五色のしかが住んでいる(ということ)。
恩

○解説○

- (1) 川でおぼれている男が「私をだれか助けて」と叫んだ声を聞いて、川を泳いでそばに来て助けたのは、「かせぎ」。
(3) 空欄の前の「ゆめゆめ」は、下に打ち消しの言葉を伴って、強い禁止「決して……するな」という意味を表す。五色のしかがいてると知れば、人はその皮を取ろうとして殺すだろうと、しかが恐れていることを読み取って考える。
(4) 決してもらすことはないでしょう、と約束したのはどんな内容か。
(5) 助けてくれたしかへの恩を忘れた男の行動を、人倫に反すると大王は判断したのである。